

日交研シリーズ A-595

平成 25 年度自主研究プロジェクト

地域活性化と社会資本整備の財源問題

刊行：2014 年 5 月

地域活性化と社会資本整備の財源問題

Regional Vitalization and Financing Problems of Public Capital Improvement

主 査：井堀利宏（東京大学大学院教授）

Toshihiro IHORI

要 旨

政府間財政のあり方と交通インフラを含む社会資本整備の経済的な効果に関して、政府間財政の理論モデルを用いて理論的に解明するべく、住民の効用・社会厚生を考慮した地方政府の行動を陽表的に分析でき、かつ社会資本を織り込んだ理論モデルを構築した。実証面では、住民の安心・安全という観点で、幼児死亡率と救急救命センターの所在地の関係について考察を行った。また、分野別に社会資本の経済効果を探った先行研究を整理した。その中で、交通関連の社会資本の生産力効果を探るにあたっては、地域間格差を扱う定式化が必要であることを示した。それを踏まえ、首都圏ないしは東京都とそれ以外の地域とに区分することで、道路に着目し交通関連社会資本の生産力効果を探った。計量分析の結果、首都圏、とりわけ東京都については道路の整備が生産性の向上に寄与する一方、それ以外の地域については必ずしも道路の整備が生産性の上昇をもたらさないことが示された。最後に、社会資本整備における中央政府と地方政府の役割分担という視点から、その財源分担など広く社会資本整備の財源のあり方に関する諸問題について検討した。

キーワード：社会資本、安心・安全、地域活性化、道路整備

Keywords：Public Capital, Safe/Secure, Regional Vitalization, Road Improvement